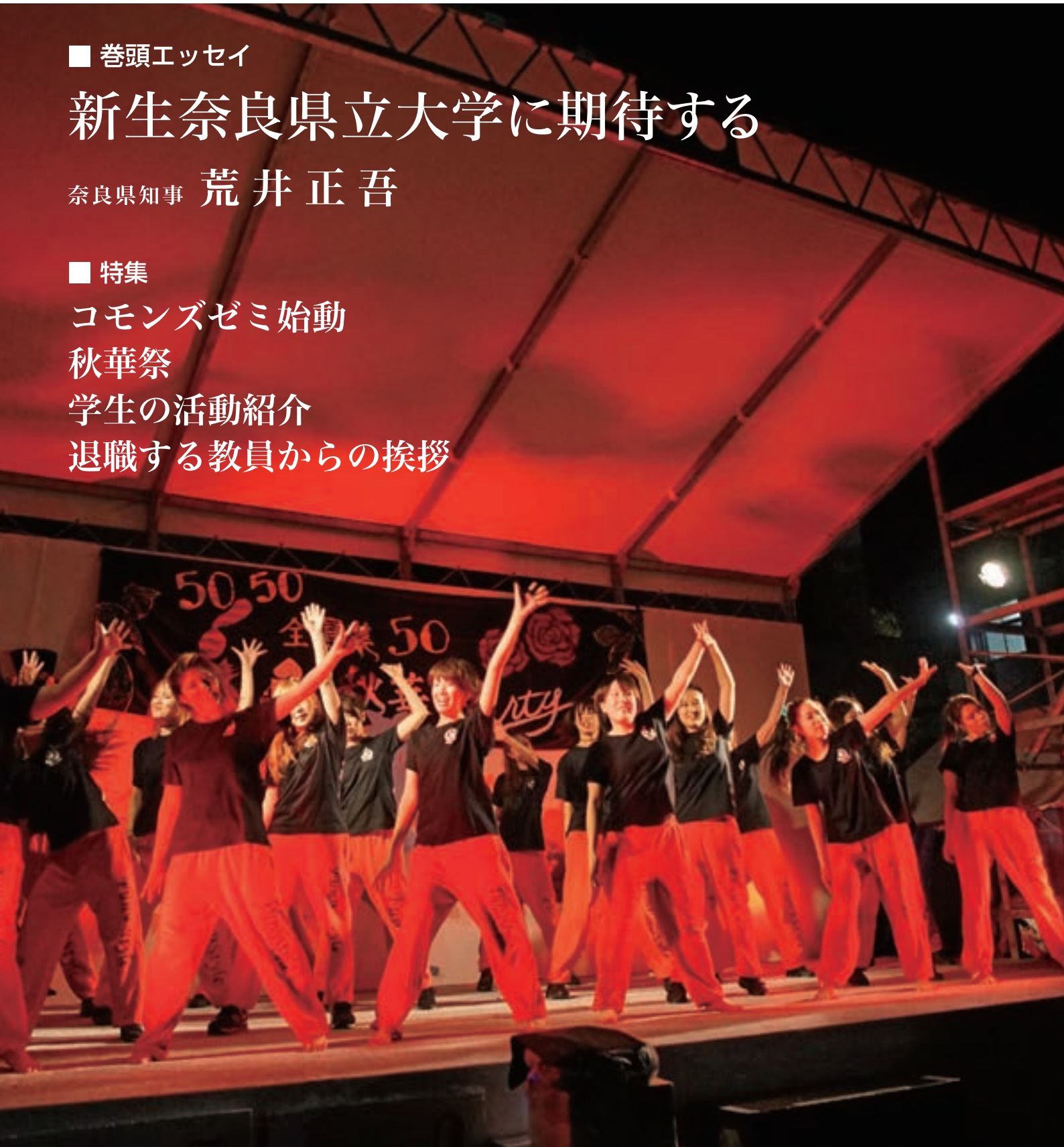
奈良県立大学 広報誌　キャンパスジャーナル

Nara Prefectural University Campus Journal

2016.3 vol.2



■ 巻頭エッセイ

新生奈良県立大学に期待する

奈良県知事　荒井正吾

■ 特集

コモンズゼミ始動
秋華祭
学生の活動紹介
退職する教員からの挨拶

「奈良県立大学」のロゴマークは、シルクロード経由で伝わったとされる「唐草模様」のイメージで「NARA」の文字をデザインし、奈良の枕詞「青丹よし」の色である青色（緑色）と朱色、冠位十二階の最上位の色である紫色で「最高学府」に相応しい県立大学のロゴを表現しました。

制作者：東京藝術大学名誉教授・奈良県立大学客員教授
絹谷幸二

Contents

学習コモンズ制の試みについて
学部長　中谷哲弥 …… 1–2
巻頭エッセイ
―新生奈良県立大学に期待する―
奈良県知事　荒井正吾 …… 3–4
観光創造コモンズ …… 5
都市文化コモンズ …… 6
コミュニティデザインコモンズ …… 7
地域経済コモンズ …… 8
秋華祭 …… 9–10
高知れいほくプロジェクト・クラブ紹介 … 11–12
退職される教員の挨拶・TOPICS …… 13–14

<表紙写真について>
秋華祭ステージで踊る
ダンス部

奈良県立大学本館前より

学習コモンズ制の試みについて

学部長　中谷　哲弥

本学では平成26年度より「学習コモンズ制」を核とする新しい教育システムを導入している。学生と教員による「学びの共同体」として、コモンズ専属教員による集団指導体制のもとにゼミを中心とした対話型の教育を推進している。学生達は2年次生から「観光創造」「都市文化」「コミュニティデザイン」「地域経済」の4つのコモンズのいずれかに所属して研鑽を積んでいく。

平成27年度になり、新2年次生のコモンズ選択が完了して、ようやく本格的なコモンズ教育が開始されたところである。コモンズごとに独自の運営がなされていることも特筆すべき点であろう。観光創造では観光ビジネス・政策、地域資源、アジア・グローバル観光交流という3つの分野に分かれて学外へのフィールドワークへと学生達を誘っている。都市文化では、都市文化の現状と未来について、調査演習やメディア作品・アートなどの創作演習によって実践的な学びを工夫している。コミュニティデザインは理論と実践の両面からコミュニティづくりについて学び、活動の場は奈良県下をはじめ各地に展開されている。地域経済コモンズでは工場見学なども取り入れながら、経済・経営の視点から地域の活性化について学んでいる。

今日大学教育のますますの充実と質的な転換が求められるなか、本学の新たな学習システムが先進的な事例となるよう、本学として今後も努力を重ねていく所存である。

巻頭エッセイ

新生奈良県立大学に期待する

奈良県知事　荒井正吾

奈良県立大学は、昨年、公立大学法人に移行し、新たな第一歩を踏み出されました。県からの中期目標に沿った大学運営を着実に進めていただいていることに感謝申し上げます。

現在、県では国の教育委員会制度が見直しされたことを受け、私と教育委員が一堂に会し、本県の教育課題と今後の教育行政について議論する総合教育会議を設置し、奈良県教育振興大綱の策定に向け議論を重ねているところです。この中で大学教育についても、生涯にわたる学びを見据えた大学教育の質の向上をお願いしたいと考えています。

一方、国では、平成26年11月に人口減少克服・地方創生の実現に向け、「まち・ひと・しごと創生法」を制定、「長期ビジョン」と、これを踏まえた「総合戦略」を策定されました。本県においても、県政の重要課題への取組と国の動きをマッチングさせるべく、平成26年8月に「奈良県地方創生本部」を設置し、昨年12月に「奈良県人口ビジョン」を策定するとともに、本県独自の地方創生に必要となる政策分野を、「住んで良し」「働いて良し」「訪れて良し」という3つの基本目標の下で、改めて体系的に整理し、「奈良県地方創生総合戦略」として取りまとめました。県立大学に関する項目としては、身近で特色ある大学として機能することを目標に、「住んで良し」の基本目標の中で「県立大学の改革の推進」を掲げたところです。

東アジア・サマースクール開講式の様子

県立大学は、全国的に見ても小規模な大学ですが、対話型少人数教育（学習コモンズ制）の導入は小規模大学ならではのユニークな取り組みです。また、県内の多くの市町村や団体との連携協定による協働研究、フィールドワークを通じた実践型教育や意欲あるシニア世代に学ぶ機会を提供いただいている「奈良県立大学シニアカレッジ」の開講等の取組は県立大学の地域貢献として県民の付託に応えるものです。また、国際交流として、新たに設置されたユーラシア研究センターにおける、ユーラシアと関わる奈良の文化資源に関する調査研究・研究成果の発信や東アジア各国の多くの若者が集い知的な交流を行う「東アジア・サマースクール」等は奈良らしい取り組みであると思います。

新生奈良県立大学は、「奈良の再発見を通して日本と世界に貢献する」を新しい建学の精神に定められ、課題解決指向型の教育を通じて洞察力、創造力を身につけた地方創生に貢献できる優れた人材の育成、また、奈良県の教育・研究の地（知）の拠点として、県民から大学に対して期待される機能を十分に発揮し、活躍していただきたいと思います。

総合教育会議の様子

観光創造
コモンズ

ー観光ビジネス・政策
ー地域資源
ーアジア・グローバル観光交流

神戸南京町を視察する様子

コモンズゼミ始動

観光創造コモンズは「学びの共同体」として、観光ビジネス・政策分野、地域資源分野、アジア・グローバル観光交流分野の3つの分野で構成されています。それぞれの分野では、講義とフィールド活動を通じて、コモンズゼミを展開しています。観光ビジネス・政策分野では、過疎地の実態、公共交通機関の役割、ホスピタリティ産業などを学問的立場から考察し、同時に明日香村、香芝市、熱海市などをフィールドとして活動しています。地域資源分野では、地域資源を活かした風景づくりを目的として、資源の本質的価値や保全のしくみ、観光利用との関係性を座学で学び、奈良公園、大台ヶ原、唐古・鍵遺跡などをフィールドとして活動しています。アジア・グローバル観光交流分野では、グローバルな視点から観光を学ぶことを目的として、ギリシャやアジアなどを対象に英語形式による講義なども実施しています。また神戸異人館、南京町（上図）、東京、横浜などでフィールド活動を展開しています。

事例紹介

京都府宇治田原町のプロジェクト「宇治田原を食べつくす」に観光ビジネス・政策分野の学生たちが参加しています。学生たちは、茶恋G隊（ちゃれんじたい）と称してSNSを活用した情報発信を行っています。今年のプロジェクトのテーマは「お茶漬け」です。町内16店が「お茶漬け」にちなんだ新商品を開発します。それに協力するのが学生たちで、町内のイベント参加店に出向いて、学生自らが試食やヒヤリングを行い、各店の経営者の方々とコミュニケーションを取り合いながら商品企画やネーミング、味覚や飾り付けなどについて意見を出し合い、それらをブログを通じて情報発信しています。このブログは地元の人たちにも結構人気で、「若者目線がなかなか面白い」ということでヒット数が1000件を超えています。今回の学生たちの取り組みは、地元のテレビ局、新聞にも取り上げられ、宇治田原町の地域活性化に一役買っています。

学びのOneシーン

東京モスクを訪問

「宇治田原を食べつくす」の取組の様子

明日香村での歴史ガイドの様子

「となりの寺子屋」の取組の様子

都市文化
コモンズ

ー都市社会史
ーメディア・表象
ーアート・アミューズメント

地域交流棟屋上でのドラマ撮影の様子

コモンズゼミ始動

都市文化コモンズでは、2年生を対象に、文献講読演習、調査演習、創作演習（メディア、アート）の3つの演習を設けています。当初は戸惑いがちだった学生も、徐々に自分たちで議論ができるようになってきました。調査の基礎的な力も着実に身につけています。学生間のコミュニケーションも円滑になり、ブレインストーミングや役割分担の運び方も手馴れてきました。演習と連動したフィールドワークにも積極的に取り組んでいます。

都市文化の現状や社会的・歴史的背景について「調べ、読み解き、考える」という学問的探究と同時に、都市文化の表現を「想像し、創造する」という実践的挑戦も少しずつ実を結びつつあります。

今後は、さらに演習間の連携をはかり、コモンズゼミ全体での教育力を発揮していきたいと考えています。そのことによって、学生が各演習の内容や学修成果を、相互に関連させて理解し、実践に役立てることができるように願っています。

創作演習（メディア）

「よ〜い、はいっ！…カット！」。快晴の日、地域交流棟の屋上に響く学生の声。二〇一五年度の創作演習（メディア）では、奈良県の南部東部地域を紹介する動画メディアの制作を通じて創造性と実践力を育む取り組みを実施しました（上図）。これまでとは違った目線で地域を編集し、発信する中で、学生たちは多くのことを学びます。

学びのプロセスをマップ制作実習を例に取って説明しましょう（下図）。創作といっても、ただ作ればよいわけではありません。まずは、研究が必要です。奈良市観光協会専務理事の鷲見氏による奈良市観光の現状についての講演を聞き、マップのニーズを把握します。次に、既存のマップに書かれている物、書かれていない物を分析し、自分たちの作るマップをどのようなものにするか、ディスカッションします。出来上がったマップにはこだわったポイントなどを書いて展示し、学生同士で評価し合うピア・レビューを実施します。

こうした取り組みで、研究と実践の間を往還しながら、社会や文化と主体的にかかわるためのスキルを身につけてもらっています。

学びのOneシーン

出来上がったマップとアピールポイント

奈良市観光協会の鷲見氏より奈良市の観光についてのレクチャー

マップは学生全員のピア・レビューで評価

既存のマップを分析して、自分の創作に活かす

コミュニティデザイン
コモンズ

ー コミュニティ政策
ー 持続可能なコミュニティ
ー 共生・協働のまちづくり

「問い」を立て構想した研究の内容をグループ発表する様子

コモンズゼミ始動

コミュニティデザインコモンズでは、コミュニティをさまざまな視点から眺め、コミュニティの現状とそれを取り巻く社会のあり方を研究しています。今年度は、2年次生が創るコモンズゼミで6つの活動が展開されました。人と社会の関わりを考える公共哲学のゼミではコモンズルームのデザインを通じて「歓待」という概念について学びを深め、研究方法を学ぶゼミでは今後の主体的な学びに欠かせない「問い」を立てるという思考の作業(上図)を経験しました。また、まちづくりを学ぶゼミでは奈良市法蓮町の方々からの依頼を受けて町の観光ルートを提案し、地域の方からフィードバックをいただきました。都市計画を学ぶゼミでは、奈良市朱雀地区を実際に歩き、統計資料などのデータを用いて地域像を描き、将来のあり方を検討しました。そのほかにも、地域創造の主要なアクターである地方行政とNPOなどにヒアリングを行なう調査ゼミがそれぞれ展開されました。これらの活動を経験した2年次を経て、3年次からは各自が研究テーマをもち、ゼミ仲間や教員と互いに刺激しあいながら自らの研究に取り組んでいきます。

事例紹介

2015年10月から約4ヶ月間かけて「ライフヒストリーを用いたコミュニティ研究ー地域活動を担う人に着目して」という調査を主体としたゼミが行なわれました。ライフヒストリー法とは社会に関する調査方法のひとつで、個人の経験や語りから社会を理解する方法です。ゼミでは、ライフヒストリー法の概要や聞き取り調査の事前準備などについて学んだ後、11月に奈良市はぐくみセンターで開催された「HUG2(はぐくぐ)祭り」(奈良市ボランティアインフォメーションセンター主催)に参加しました。そこで出会った方々を中心に、NPOやボランティアグループなど市民団体を通じて地域の課題に取り組んでこられた方々からじっくりとお話を伺いました。それぞれが聞いたお話の内容をゼミで報告しあった後には、各自がデータの分析を行って論文にまとめ、ゼミ生全員の論文を収めた報告集を作成しました。

インタビュー内容を分析・検討する様子

桜井市本町通商店街「ソラほんまちフェスタ」参加の様子

「歓待」の空間デザインのコモンズ内コンペ表彰式の様子

十津川村での地域活動の様子

学びのOneシーン

地域経済
コモンズ

ー 地域経済
ー 地域産業
ー 流通・マーケティング

地域課題の解決策についてプレゼンテーションを行う様子

コモンズゼミ始動

平成27年度より、コモンズゼミが始動しました。地域経済コモンズを担当する教員チームが、文献講読や実践活動等を通じてゼミを指導しています。文献講読では、専門分野の邦文文献や外国語文献を読んでいます。実践活動では、企業見学、自治体視察、議会傍聴など学外に出向き、実社会を見ることにより、現実の地域経済を理解する機会を設けています。ゼミ生は、2年次から始まったフィールドワークにも積極的に参加し、地域調査、インターンシップ、ボランティア等の活動を行っています。各コモンズの代表がゼミ活動やフィールドワーク活動についてプレゼンテーションを行うインターコモンズゼミが10月に開催されましたが、地域経済コモンズからは、2人のゼミ生がフィールドワーク活動の成果を発表しました。また、奈良県の魅力ある中小企業を見学するツアーに参加した2人の学生が、奈良県企業魅力発信シンポジウムで報告者およびパネリストとして参加しました。

事例紹介

平成27年12月12日(土)午後に開催された平成27年度榛原連合自治会研修会に地域経済コモンズの2年生11名が参加し、榛原地域の榛原、東榛原、内牧、伊那佐、大王の各地区の自治会代表者ら約40名と来賓の竹内幹郎宇陀市長を前に「地域が抱える課題について」をテーマにプレゼンテーションを行いました(上図)。プレゼンテーションでは、榛原地域における人口の流出と減少に関するデータの分析結果と11月21日(土)に実施した現地調査の結果を踏まえて地域の課題とそれらに対する具体的な解決策について複数の事例をあげて提言しました。また、その後のディスカッションでは、学生の発表内容や提案に対して、各地区の自治会代表者より、数多くのご質問と貴重なご意見をいただきました。学生たちにとっては、自分たちの調査研究を地域の方々に披露し、それに対する「生」の声を聞くことができるという貴重な経験と学びの機会になりました。

奈良県企業魅力発信シンポジウムでの発表の様子

インターコモンズゼミでの発表の様子

地域課題に関する現地調査の様子

地域の方々とのディスカッションの様子

学びのOneシーン

奈良県立大学学園祭 第50回

秋華祭

平成27年11月8日(日)

「50(ゴー) 50(ゴー) 全員集50(ゴー) 秋華party!!」

そんなテーマを掲げ、第50回 秋華祭を開催しました。50回目という大きな節目の機会に、法人化・校舎の建て替え・新カリキュラムの導入等、創成期にある県大の新しい姿を沢山の方に見てもらいたいという想いも込めています。

秋華祭は地域の方々と学生で一緒につくります。まさに県大らしい、地域に根ざした学園祭です。これからも大学と共に秋華祭も進化していきますので是非県大へ、秋華祭へ、お越しください！p(#^.^#)q

実行委員長　大谷　優

手作りプラバン

地域交流棟の屋上ライトアップ

模擬店のPR中！！

広報部署では秋華祭のテーマにあわせてパンフレットやポスター、会場内の装飾を制作しています。テーマは"秋華party"ということでティーパーティーをイメージし"不思議の国のアリスin奈良"をモチーフにしました！

装飾は、奈良県立大学のアットホームな雰囲気に合わせて手作りを心掛け、毎年メンバーごとの個性が出ていますので、ぜひ注目してみてください！

これからも皆さまにより楽しんで頂けるよう秋華祭を彩っていきたいと思います。

広報部署長　中村 徳子

秋華祭とは、前身である奈良県立短期大学時代に始まり、奈良県立商科大学時代を経て、奈良県立大学時代も連綿と引き継ぐ学園祭であり、記念すべき50回目を迎えました。生憎の雨でしたが、熱気に満ちており大いに盛り上がりました。

前夜祭

フードも充実な品揃え

本祭への前哨戦

ようこそ、前夜祭へ

前夜祭には多くの県大生が集い盛り上がりました。ステージ企画では本祭におけるPR時間をかけた模擬店対抗の企画や豪華景品をかけた企画など様々な企画に大盛り上がりでした。さらに、ミス県大、ミスター県大を決めるミスコン、ミスターコン予選では出演者さんの素敵な姿に会場も大盛り上がり。美味しいごはんと楽しい企画を支えてくださった県大生の皆さん、本当にありがとうございました。

前夜祭部署長　大嶋 ひで香

秋華祭 タイムスケジュール

10:00 オープニング

13:00 地元船橋通り商店街協力による餅つき

15:00 爆笑オンステージ

17:30 模擬店終了

19:00 地域交流棟屋上での燈花会

20:10 エンディング

K-ON Livestage

イベント部署では、メインステージの企画や司会、そしてプラバンや県大大冒険、せんとくんと蓮花ちゃんの縁結びなどの催しを担当しました。今までにないぐらい多くの有志の方々の協力、参加を頂いたからこそ、私達秋華祭実行委員だけでは絶対に作れない、今までにないステージになったと思っています。みなさんの「楽しかった！」を聞けるよう、私達はもっとパワーアップしていきますので、次回の秋華祭もぜひお楽しみに！

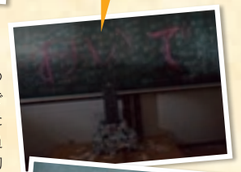
イベント部署長　藤原 萌

ダンス部"Fun9style"ステージ

第50回秋華祭では35店舗もの模擬店が秋華祭を彩ってくださいました。内容も幅広く、たこせんやうどん、チュロス、焼肉など。本当に大盛況でした。あいにくの雨でしたが、多くの方で賑わい、秋華祭を成功できたのも出店していただいた団体様のお陰です。第50回模擬店の代表として携われて良い経験となりました。模擬店を楽しんでくださった皆様、ありがとうございました。

模擬部署長　中川 恵里花

おばけ屋敷(芝居同好会協力)



私は50周年企画として、お化け屋敷の運営に携わらせてもらいました。これまでにやったことのない初めての企画だったので、困難も多々ありましたが、実行委員のメンバー、芝居同好会〇スイさんを初め、沢山の人達の協力で、当日は老若男女、たくさんの方々に訪れていただき、楽しんで頂くことができました。1つの企画を成功させられたことは、自分の自信にも繋がり、また、達成感も味わえ大学生活の中で思い出に残ること間違いなしです！

50回記念企画担当　大河 ともみ

人気投票第1位 食文化研究会

茶道部によるおもてなし

秋華祭実行委員会 全員集50！

喝采を博する餅つき

地元交流担当は、船橋通り商店街の皆さんにご協力いただき、毎年恒例で餅つき大会を行っています。つきたてのお餅は大好評で、今年も150人以上の方が集まりました。観客の方に餅つき体験をしてもらったり、会場が一体となって「よいしょ！」と掛け声をかけながら餅つきを応援したりと、大いに盛り上がりました。この餅つき大会を通して、大学と地域との交流がさらに深まったと思います！

地元交流担当　上　里奈

高知れいほくプロジェクト

「高知れいほくプロジェクト」は、日本の中山間地域の一つである高知県嶺北地域(土佐町、本山町、大豊町、大川村)で活動する奈良県立大生によって構成されています。このプロジェクトは、2013年6月に嶺北地域観光・交流推進協議会と奈良県立大学が結んだ「連携協力に関する包括協定」に基づき、年数回、嶺北地域を訪問し、観光や行政の課題を様々な体験を通じて学ぶと共に研究・交流を行っています。

2015年度は、嶺北地域にある「集落活動センター」の調査を通して中山間地域と学生を繋ぐプログラムを企画し、9月27日(日)から4日間の日程で2年生12名が参加しました。現地では聞き込みやフィールドワーク、成果報告会では地域住民へ調査報告を行い、その様子は高知新聞にも掲載されました。ほかにも参加者は民泊やラフティングなどの体験も行いました。

参加者コメント

プロジェクトに参加して感じたのは、私たち大学生と現地に住んでおられる方々との意識の違いです。聞き取り調査やフィールドワークを通して「地域活性化」とは何かを改めて考えさせられました。自分の将来に向けて大きな経験をさせていただいた4日間でした。

太田 英治
(コミュニティデザインコモンズ)

プロジェクトメンバーコメント

高齢化・過疎化が進む嶺北地域で自分たちができることは小さなことかもしれませんが、地域のみなさんの気持ちを知ること、そして一人でも多く嶺北ファンを増やすことを目標に活動しています。プログラムを通して、参加者も新たな嶺北ファンになってもらえたと実感しています。

猪井 綾子
(観光創造コモンズ)

「地域に出る」こと

れいほくプロジェクトは「学生と中山間地域をつなげる」をコンセプトに学生4人で活動しています。少人数ですが企画から交渉、準備、現地での活動、すべてを学生が分担して行っています。学生が「地域に出る」ことは視野を広げるきっかけとなり、私自身も嶺北で様々な方と出会い、地域を愛し生き生きと暮らす人達を見て嶺北に愛着を持ち、また「自分の住みたいまちに住む」生き方に気づきました。今は自分の住みたいまちを探して日本中を旅しています。都会に住む学生にとって中山間地域は驚きと発見で溢れており、新たな出会いがあるかもしれません。2016年度も嶺北地域で活動を行います。「地域に出て活動したい」と考える県大生は是非参加してみてください。

プロジェクトリーダー
秋元 優介
(コミュニティデザインコモンズ)

ダンス部 Fun9Style

こんにちは、ダンス部Fun9Styleです！私たちは毎週火曜日16時30分から元気に活動しています！部員は一回生5人、二回生9人、全員女子で先輩後輩仲良く練習をしています。秋華祭やサマーパーティなどの学内イベントのほか、なら100年会館で行われる「まほろば円舞会」などの学外のイベントにも積極的に参加しています！部員のほとんどがダンス未経験者ですが、それ以上にみんな一生懸命に楽しく練習しています！今年は特にイベントに参加する機会が増え、練習時間が例年より増えましたが、その分チームワークが向上しました。いろんなところで私たちFun9Styleを知ってもらえる機会が増えてきたと思いますが、これからもまだまだ活動の場を広げていきたいと考えています。

芝居同好会 ○(えん)スイ

こんにちは、私たちは芝居同好会○(えん)スイです。

○(えん)スイでは演劇が好きな学生が集まり、火曜と木曜の週2回活動しています。

主な活動は学内での定期公演で、公演日に向けて日々練習しています。一口に演劇をするといっても、演劇に欠かせない役者、演技指導や裏方指導をする演出、お客さんの興味を引く脚本を作る脚本家、役者の演技を際立たせる照明や音響など、様々な役職があります。部員それぞれが自分の役目を果たし、全員で心を一つに素敵な作品を届けることを目標としています。練習を積み重ねてよいものが上演できた時の喜びや、無事終えたときの達成感は何物にも代え難いです。少しでも興味のある方はぜひ公演にいらっしゃってくださいね！

平成27年度、長きにわたり県立大学で教鞭をふるって頂いた2人の教員が退職されます。

退職するにあたって

西田正憲　教授

16年間、大学の皆様にはお世話になり、厚くお礼申し上げます。私は25年間環境庁（現環境省）に勤め、2000年に大学に奉職させていただきました。幸か不幸か、37歳で大病を患い、その結果研究に専念し、風景論で農学博士号を取得することができ、教育研究の道へと転身しました。大学は、在任中、商学部から地域創造学部へ、夜間大学から昼間大学へ、そして、コモンズ制大学へと大きく変貌しました。地域交流、国際交流も盛んになりました。学生諸君との瀬戸内海や越後妻有などへのゼミ旅行や懇親会が楽しい思い出となりました。最大の研究テーマとしてきた自然風景論が西田ワールドとして共感や評価を得たことは喜びでした。お正月はいつも学生諸君とともに卒業論文や懸賞論文の仕上げで苦労しました。私は必ずしも優れた教育者ではなく、心残りのゼミ生が何人かいましたが、多くが公務員、民間企業、教育研究者等とそれぞれの道を歩んでくれているのは、教員冥利に尽きる大きな幸せです。

原点回帰

新谷多枝　教授

私が大学を卒業する時、担任の先生から「これからが本当の勉強ですよ」という御言葉を頂いた。確かに、社会人として仕事をするには、学ぶことが山ほどあり、毎日がテストのような緊張感であった。しかし、その会社で輸入業務を担当していたことから、毎日大量の英文レターを読んだり書いたりしたことが、その後の英語教師の道に繋がるとは、人生の伏線はどこにあるか分からない。

奈良県立大学では、思いつく限りの教え方を試してきたが、定年間際の最後の年に教えている「ビジネス英語」は私の20代を思い起こさせ、なつかしく楽しい授業である。まだ実際に貿易業務を体験していない学生さんにとっては、イメージが湧かず、堅苦しい英文レターに困惑していると思う。しかし、これだけのグローバル時代である。社会に出て英文レターを手にした時、「この文面、見たことある！」と旧友に再会した気持ちになること請け合いである。

東アジア・サマースクール2015

「東アジア・サマースクール」は東アジア各国（主に中国、韓国、ベトナム、日本など）からの受講生による短期集中型セミナーです。奈良県立大学をメイン会場に著名な講師による国際色豊かな講義等を行っており、2016年も奈良県立大学にて開催予定（8月）です。県大生で興味のある方は是非事務局まで。対話による相互理解を実感できます。

ホームカミングデー

平成27年10月4日（日）、奈良県立大学同窓会（旧奈良商科大学、県立短期大学含む）主催による「ホームカミングデー」を開催していただきました。卒業生による講演や新設した地域交流棟の見学などが行われ、食事会では世代を超えた交流が図られており、奈良県立大学を支える大きな力になっています。

天理市並河市長による特別講義

平成27年10月8日（木）、本学と包括的連携協定を締結している天理市との連携事業の一環として、並河健天理市長に本学へお越しいただき、『創生時代の地方行政～天理市の場合～』をテーマに、本学学生に対し特別講義を実施していただきました。今後も種々連携事業を展開していく予定です。

ユーラシア研究フォーラム2015

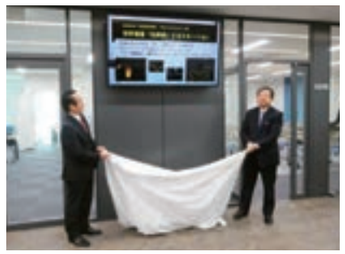
平成27年10月17日（土）、国内外の第一線の研究者らが一堂に会し、「ゾロアスター教」をキーワードに、ユーラシア各地に広がった古代メソポタミア文明と日本国家の基礎となった飛鳥・奈良時代の文化の関わりを探求するフォーラムを開催。100名を超える聴講をいただきました。

奈良の木を使用した木製テーブルの贈呈式

平成27年12月15日（火）、農林中央金庫大阪支店より奈良の木を使用した木製テーブル（長テーブル5台、丸テーブル2台）を寄贈いただき贈呈式を開催しました。地域交流棟の協働サロンおよび国際交流サロンに配置しましたので、来訪者に大いに利用していただきたいと思います。

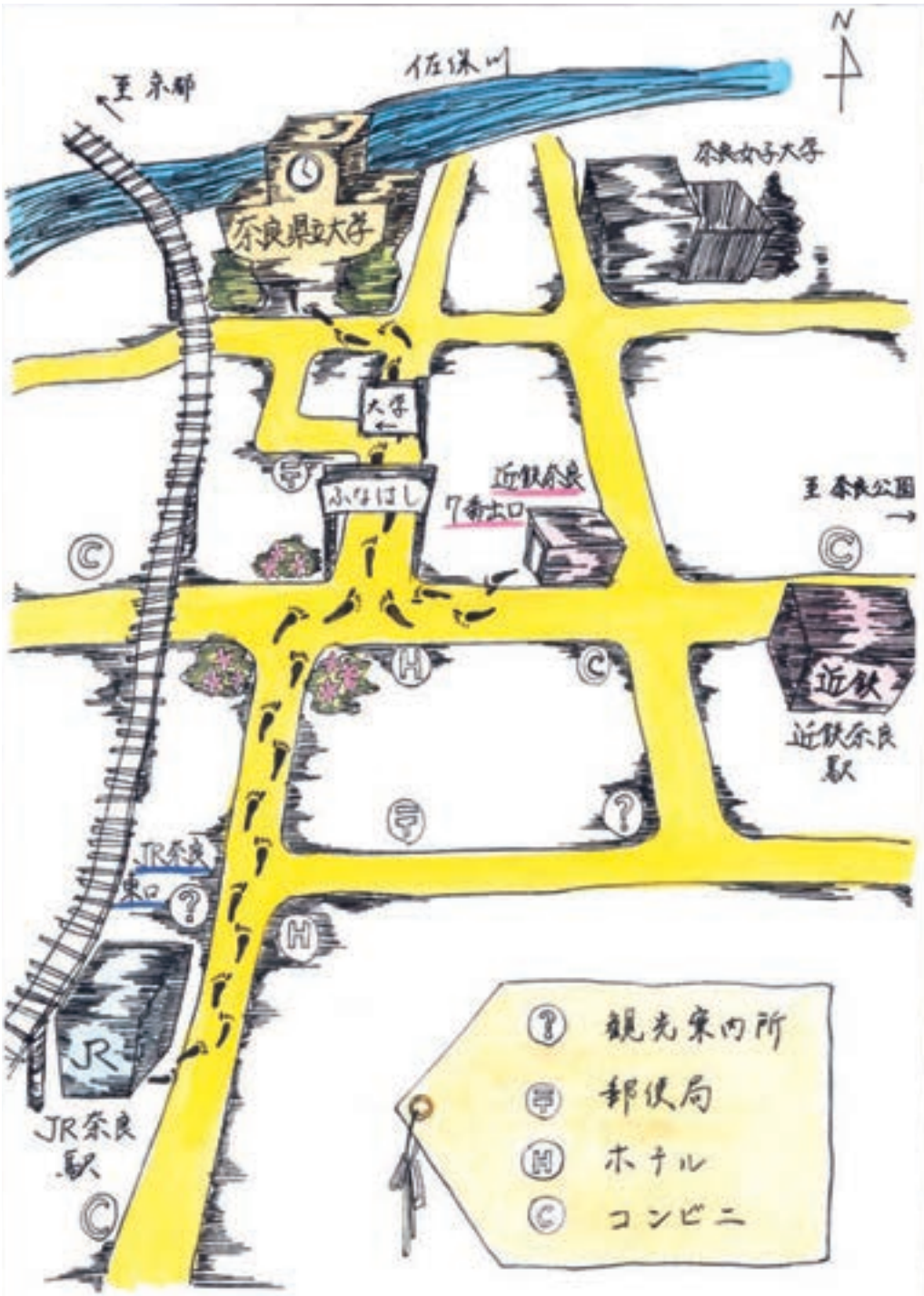
デジタルサイネージ寄贈セレモニー

平成27年12月17日（木）、奈良信用金庫よりデジタルサイネージ（65型）を寄贈いただき寄贈セレモニーを開催しました。地域交流棟1F玄関ロビーに設置し、教育はもとよりフィールドワークや学生の活動紹介など、一層の情報発信を、よりスピーディーに行ってまいります。



公立大学法人
奈良県立大学

発行日：2016 年 3 月 1 日
発　行：公立大学法人 奈良県立大学
〒630-8258　奈良市船橋町 10 番地
TEL：0742-22-4978　FAX：0742-22-4991



JR奈良駅・近鉄奈良駅から、おおむね徒歩10分
上記は、都市文化コモンズの学生が制作した奈良県立大学へのアクセスマップです。
なお、掲載作品以外のものも奈良県立大学地域創造データベースよりご覧いただけます。
奈良県立大学地域創造データベース　http://npudb.narapu.ac.jp/